

## 平成27年度に建設工事で発生した事故事例（転倒による事故）

### 事故概要:

攪拌機の点検作業中、点検後に点検口を閉める手順を飛ばして作業を行ったため、点検作業中に締めていない点検口に片足を入れてバランスを崩し、体を支えるためにかばい手をしたところ腕を負傷した

### 事故原因:

・作業員の不注意

### 改善対策:

・安全教育の徹底



分類: 調査業務、調査中

被害状況: 3か月間の加療(左上腕骨大結節骨折他)

## 令和2年度に建設工事関係業務で発生した事故事例（転落・墜落事故）

### 【事故概要】

設計調査のため、人孔内の硫化水素濃度計を計測するため、人孔内に入って機器設置をしていたところ、酸欠により調査員がマンホール底部へ落下した。

### 【事故原因】

- ・作業計画では、関係法令等に基づき、人孔内に入る前に酸素濃度、硫化水素濃度の測定、作業時の安全帯の使用を定めていたが、事前測定することなく、不用意に人孔内に入ったこと。
- ・当該調査員は、所定の特別教育を受講していなかった。また、現場責任者は、当該調査員の行動を見逃してしまったこと。

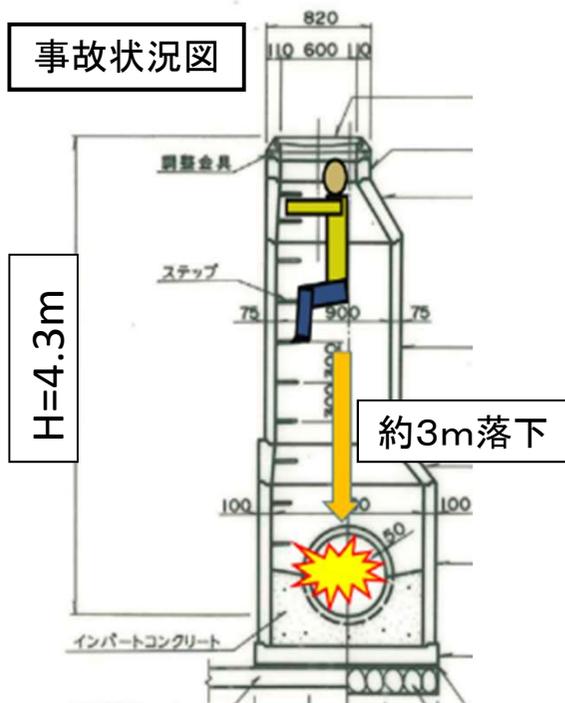
### 【改善対策】

- ・作業前に、作業員全員に対して現場主任が、人孔内作業の危険性と緊急時の連絡体制について説明・注意喚起を行う。
- ・人孔の規模、作業内容に関係なく酸素濃度、硫化水素濃度の測定、送風機での換気を行い、安全を確認したうえで、作業を行う。又、人孔内へ入る際は安全帯を装着する。
- ・これらの事項は、調査関係者全員に、安全教育を通して徹底する。

### 事故現場写真



### 事故状況図



人孔内は酸欠に近い状態だったと思われる



【分類】 業務 調査中

【被害状況】 業者人身 1名（低酸素脳症疑い・第4胸椎・右母指中手骨骨折、第8胸椎圧迫骨折（4週間の安静加療））

## 令和2年度に建設工事で発生した事故事例（転倒事故）

### 【事故概要】

法面被災箇所（高さ約20m、幅約10m）の調査を終え道路に下りている途中で、被災者が道路から高さ約1mの地点でバランスを崩し、小走りで斜面を下りたため、道路側溝に左足がはさまり、前のめりに転倒し左足首を骨折した。

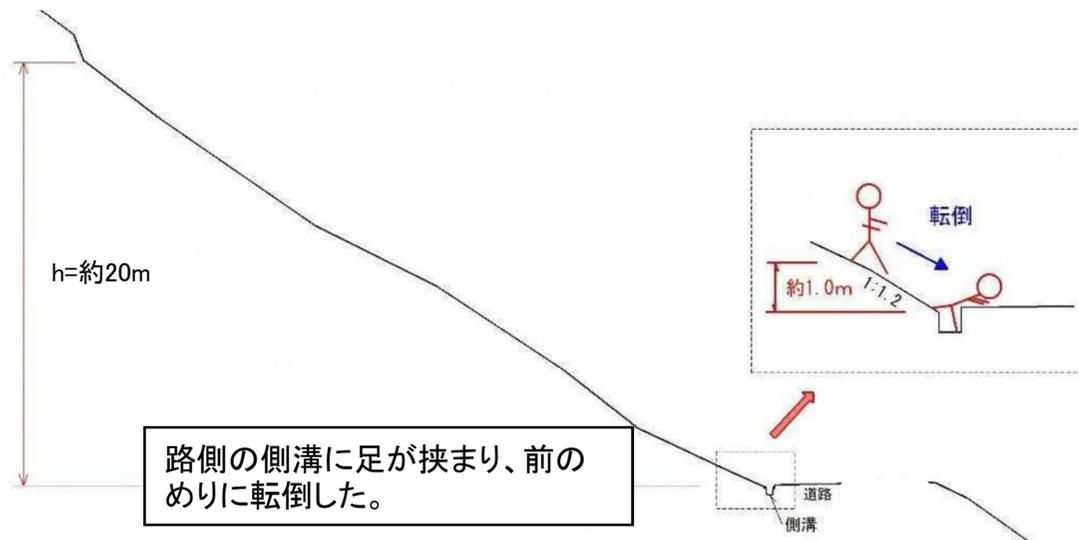
### 【事故原因】

- ・降雨により土砂がぬかるみ、滑りやすい状況であったが、被災者は、斜面調査が終了したことで気が緩み、足元の視認が不十分であった。
- ・被災者が被災斜面での作業経験が十分でなく、危険予知に甘さがあった。（ここまで下りたら後は大丈夫だろうと、本人に過信があった）

### 【改善対策】

- ・斜面での作業に関して、注意事項や装備について再度周知を徹底する。
- ・危険箇所では、作業が終了しても危険箇所から移動するまで慎重に行動する。
- ・斜面を移動する際は、足元をしっかりと視認し不安定な部分に足を掛けないよう注意する。

事故現場状況図



事故現場状況写真



【分類】調査業務、調査中

【被害状況】業者人身 1名 左踵骨骨折(全治2ヶ月)

## 令和2年度に建設工事で発生した事故事例（墜落事故）

### 【事故概要】

災害復旧測量設計業務の現場において、査定用の写真撮影のためポールを立てるため、斜面上を移動中に墜落し負傷した。

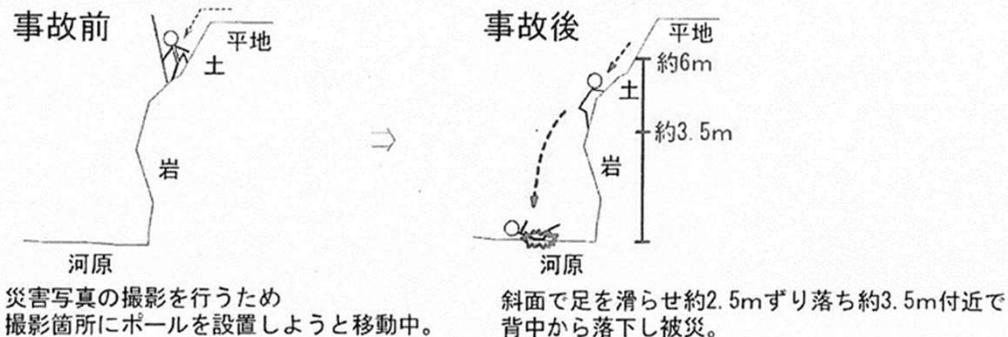
### 【事故原因】

- ・降雨による崩壊地で、滑りやすい等危険な状況であったが、危険性の認識が薄く、作業前のKYミーティングで、十分な対策が話し合われなかった。
- ・危険な高所作業に該当するにも関わらず、ロープ、墜落防止用具を使用しなかった。

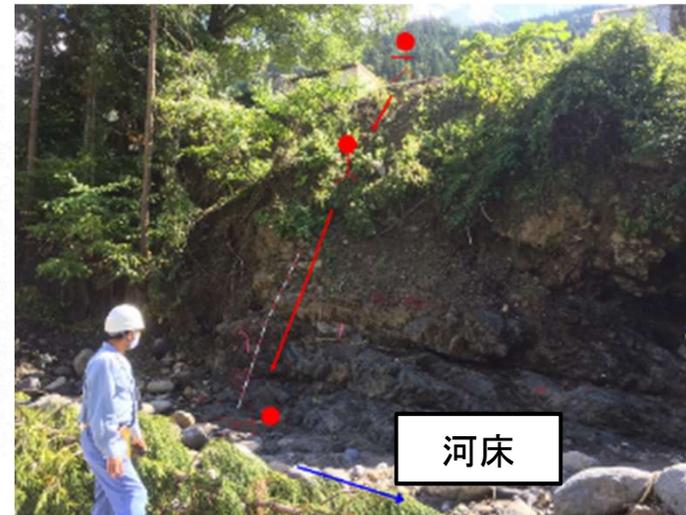
### 【改善対策】

- ・「災害査定添付写真の撮り方」参照し、危険な箇所へは極力立ち入らない。（勾配変化点のポール立ては不要）。
- ・斜面での作業を行う際には、KYミーティングにおいて注意事項を作業員全員に周知するとともに、適切な装備を身に着けることを徹底すること。

事故現場状況図



事故現場状況写真



河床

【分類】調査業務、調査中

【被害状況】業者人身 1名 腰椎破裂骨折(全治3ヶ月)

## 令和3年度に建設工事関連業務で発生した事故事例（転倒事故）

### 【事故概要】

設備点検業務における点検作業中に、ポンプ間移動用の点検歩廊を利用せず、場内配管を跨ぎショートカットをした際、配管に足を引っかけて転倒し、右ひじと右胸を電線管に打ち付け負傷した。

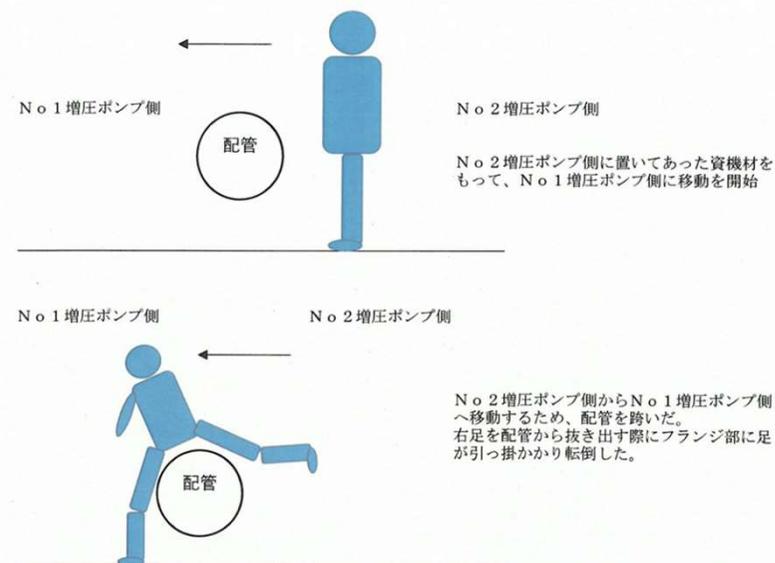
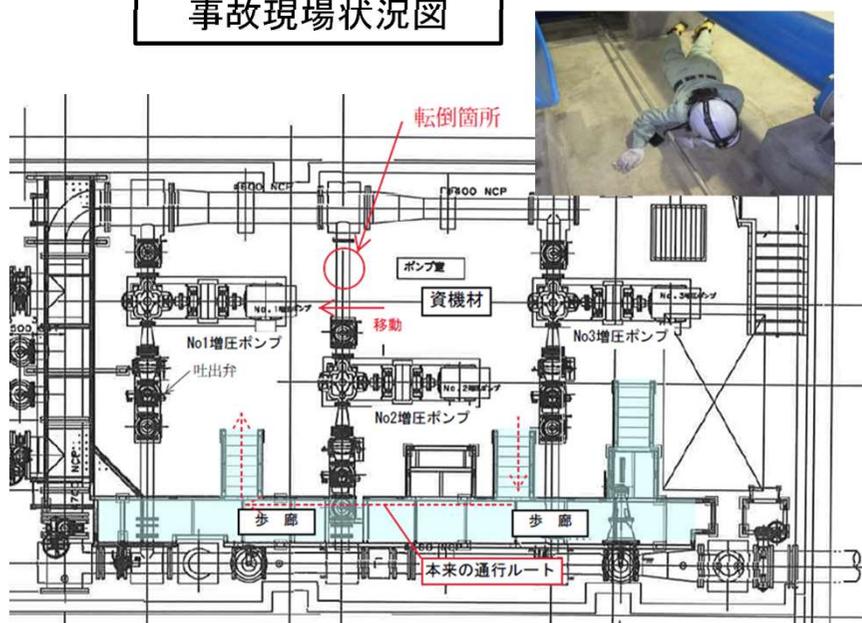
### 【事故原因】

・KY活動で、現場の配管が障害となることから、足元を注意することになっていたが、被災者は、本来の通路を通らず経路をショートカットするため、不用意に配管を跨いで移動しようとしたため被災した。

### 【改善対策】

・移動経路は点検歩廊を用いるよう周知徹底し、危険箇所にコーンバー等による立入禁止処置を行う。  
・作業前に必要な道具を予め付近に配置し、作業員の移動を最小限にする。  
・上記内容について安全教育を行い、作業員の安全意識の徹底を図る。

事故現場状況図



【分類】 調査業務、調査中

【被害状況】 業者人身 1人 左右胸部挫傷、右ひじ挫創（通院加療を要す）

## 令和3年度に建設工事関連業務で発生した事故事例（飛来物・落下物事故）

### 【事故概要】

ボーリング掘削作業中、ボーリングビットによりため池堤体下流法面に埋設された農水管（VP φ125）を破損させ、周辺に泥水が飛散した。

### 【事故原因】

・ボーリング箇所選定にあたり、ため池・農水管理者に聞き取りを行っていたが、現場で農水管位置が不明確であったにもかかわらず、管理者との現場立会、試掘を行わない等十分な確認をせずに箇所選定を行い、作業を進めたため。

### 【改善対策】

・地下埋設物が有る場合、埋設物管理者への事前確認、現地立会による詳細把握、試掘の立会実施を徹底する。  
・埋設物対策について、社内教育を改めて徹底する。

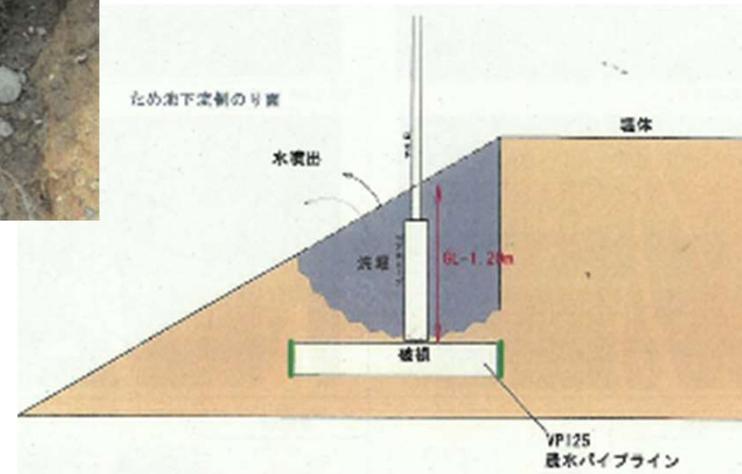
### 事故現場状況写真



噴出状況



### 事故状況図



【被害状況】農水管VP125破損、軽トラック損傷、ビニールハウス屋根に泥小石飛散及び屋根の一部損傷、同ハウス内に泥水流入、周辺樹木被水。ボーリング箇所周辺土流出

【分類】調査業務、調査中

## 令和3年度に建設工事で発生した事故事例（転落事故）

### 【事故概要】

法枠施工箇所の上部斜面確認のため、レーザ距離計による計測を行っていた。測線の位置を確認するため、斜面下方を向いたときに足を滑らせ、法枠工天端から高さ5m間を滑り落ち負傷した。

### 【事故原因】

- ・前日の降雪により若干滑りやすい状況であり朝のミーティングで注意を促したが、ミーティングの内容が不十分で形骸化していたため、作業員の不注意を招いた。
- ・危険な高所作業に該当するにも関わらず、ロープ、転落防止用具を使用しなかった。

### 【改善対策】

- ・安全ミーティングの目的・内容及び進め方について再教育を実施する。
- ・事前にマーキングをして測線の位置を一目で視認できるようにする。
- ・急斜面での作業は、降雨時及び降雨直後(積雪含む)には作業を中止する。
- ・適切な装備を身に着けることを徹底する。

### 事故現場状況写真



【分類】 調査業務 調査中

【被害状況】 業者人身 29歳 右足踵骨骨折 尾骨骨折

## 令和4年度に建設工事で発生した事故事例（その他事故）

### 【事故概要】

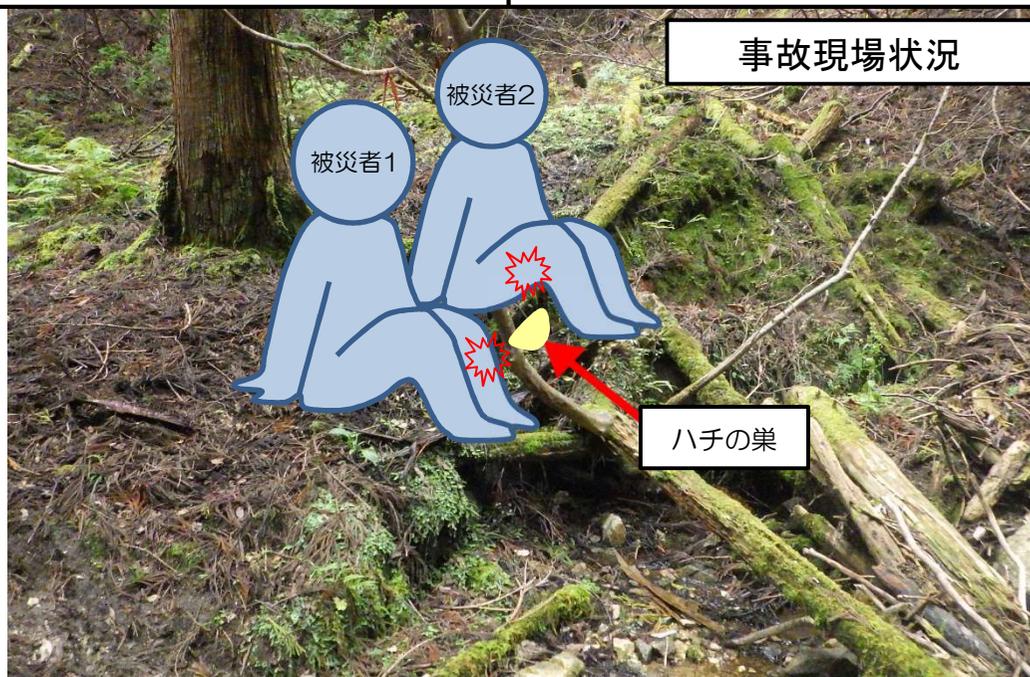
砂防堰堤の改築に伴う溪流調査中、調査員2名が正午頃、休憩のため座った足元にスズメバチと思われる巣があり、2名とも脚部を衣服の上から1か所ずつ刺された。

### 【事故原因】

休憩前に、周辺の現場確認、安全確認を怠ったこと、被災者2名はそれぞれスネ、太ももの裏側を刺されており、夏用の薄い作業服しかない場所を刺されていることから、服装等、必要な装備をしていなかったことが原因。

### 【改善対策】

- ・ 蜂等、野生生物に対する対処方法や応急処置について周知徹底を図る。
- ・ 現地調査時は蜂防護ネットで頭部を覆い、上下白色のレインスーツを着用する。
- ・ 調査員に対し蜂毒のアレルギー検査を実施する。



【分類】 調査業務 調査中

【被害状況】 業者人身 蜂刺症

## 令和4年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物事故）

### 【事故概要】

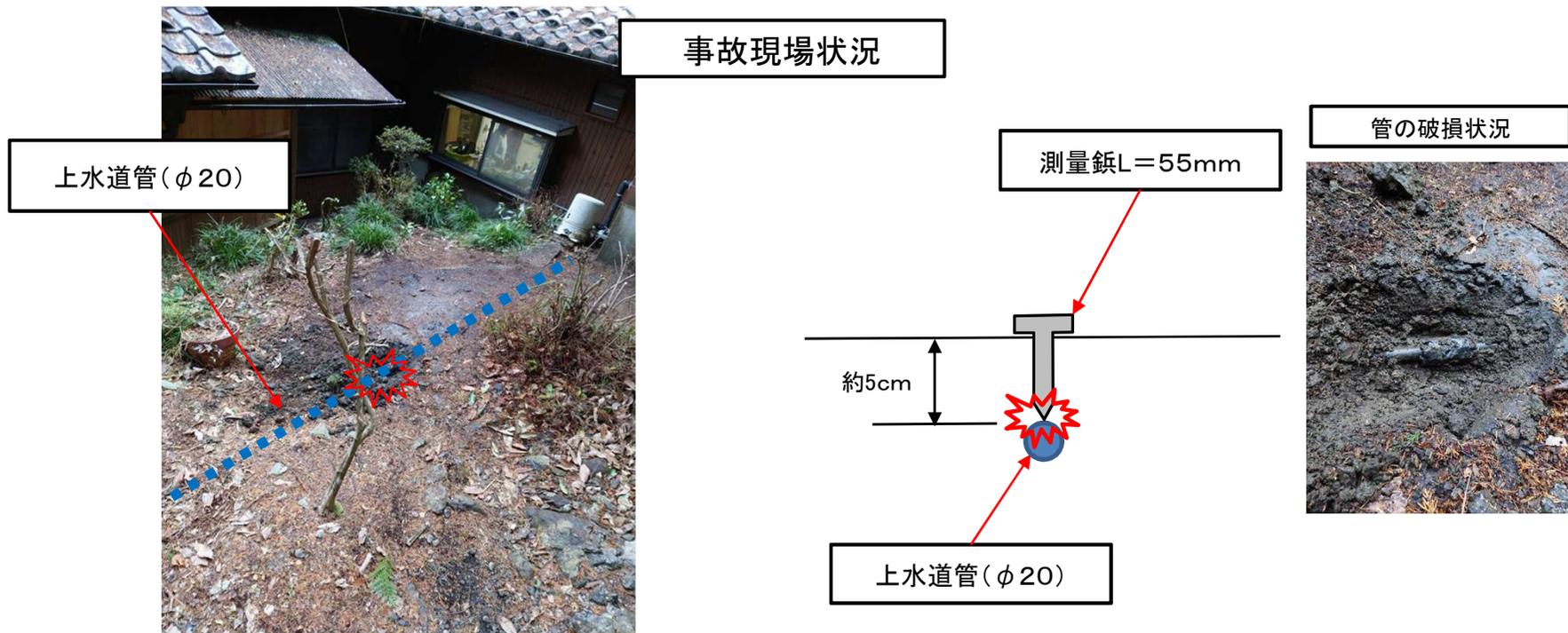
現地測量のため測量鋏（長さ55mm）を設置中、個人宅内上水道の引込み管に接触し破損漏水した。

### 【事故原因】

・事前に地権者に敷地への立入及び測量鋏の設置の許可を受けた上で、管の概略敷設位置を確認し作業を行っていたが、正確な敷設位置が不明で、埋設位置が約5cmと通常想定される深さより非常に浅い位置に敷設されていたことが原因。

### 【改善対策】

・宅地廻りの打設作業に関して、正確な埋設物の聞き取り調査を徹底する。  
・明確な地下埋設物位置が不明な場合は、測量鋏等の標識設置を避け、印等の一時的な標識とする。



【分類】 調査業務 調査中

【被害状況】 公衆物損 1軒断水 20分